

■A案について

●資料の提示について

資料の提示はできるだけ避けるべきだが、「終身刑」については「無期懲役」との違いが分かりにくいいため、説明は必要と判断する。

●資料の説明文について

短い文章で構成され工夫されている。ただ、「終身刑」という言葉へのフォーカスが弱い(後段に配置されている)。変更事例を提案する。

=====
我が国には、受刑者の仮釈放を許さず一生刑務所に収容する、いわゆる「終身刑」はありません。
現在、死刑の次に重い刑は「無期懲役」ですが、仮釈放され社会復帰できる場合があります。
=====

●資料の変更を受けたQ4の質問文の変更事例を提案する。

=====
仮釈放のない「終身刑」の新たな導入と、「死刑」を存続するか廃止するかに関わりについて、
あなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。
=====

●Q4の選択肢の変更事例を提案する。

=====
(ア) 終身刑を導入して、死刑を廃止する
(イ) 終身刑を導入せず、死刑を廃止する
(ウ) 終身刑を導入して (も)、死刑を廃止しない
(エ) 終身刑を導入せず、死刑を (も) 廃止しない 注) 順番や文言は要検討
=====

●A案提示の選択肢構成を支持しない理由

- ・選択肢構成は3つである。言葉の意味上、(イ)は(ア)の部分集合になっている。
 - 本来(イ)である人が(ア)を選ぶ可能性がある。(イ)の数値が少なくなる
- ・対象者は「死刑を廃止する」という文言を2つ視認し、「死刑を廃止しない」は1つしか視認しない。
 - 同ニュアンスの中から選ぶ傾向が増える危険性がある。(ウ)の数値が少なくなる

■B案について

●質問文の変更事例を提案する。

=====
仮に終身刑が導入された場合、死刑を廃止するほうがよいと思いますか。
それとも（終身刑が導入されても）、死刑を廃止しないほうがよいと思いますか。
(ア) 死刑を廃止するほうがよい
(イ) 死刑を廃止しないほうがよい
=====

●B案提示の選択肢構成を支持しない理由

- ・選択肢構成は2つである。しかし、「してもよい」と「すべきでない」の言葉の意味は等価でない。
- ・「べき」という断定調は、自身の誤判断を避けたい人には選ばれにくい。

■死刑制度廃止の是非を問うQ2の質問・選択肢文は妥当ではない。

- ・すでに配布された資料に掲示されている理由に同意する。
- ・この質問の選択肢は、等価性を欠いている。
- ・この質問は、「死刑絶対廃止」をとらえる質問としては評価できる。
 - 「絶対廃止」でないという間接的な意味合いで「死刑存続」の意見分布をとらえている。
- ・死刑廃止・存続に対する概念設定がこれでよいかどうか。
 - 質問に問題があったのか、概念の周知に問題があったのか
 - 世間ではこの質問の回答数値でもって「死刑存続」を計量している

■別の質問を追加するか、別の調査に新たな質問を追加することを望む

- ・時系列比較を重視する立場は理解できる。
- ・しかし、等価な選択肢による新たな質問を設け、世論を探る必要がある。
 - ・この調査に、新たな質問を設ける
 - 最大の妥協策は、A案の修正で可能かもしれない（選択肢を等価にする）
 - ・質問構成の影響を受けないことを重視するなら、別の調査に新たな質問を設ける

=====

現在、日本で一番重い刑罰は死刑です。あなたは、死刑を存続したほうがよいと思いますか。それとも、廃止したほうがよいと思いますか。

- (ア) 死刑存続
- (イ) どちらかといえば、死刑存続
- (ウ) どちらかといえば、死刑廃止
- (エ) 死刑廃止

=====

- ・既存質問は「廃止」の視点から作成されている。
 - 通常、いまあるものについては「存続」から聞き始めることが多い。
- ・A案、B案の選択肢も「廃止」の論点で作られている。
 - 「存続」の文言を使うほうがわかりやすいかどうか
 - 「廃止」「しない」と2重否定的な文言となり言葉の意味が伝わりにくい

以上